

一方向

創造は不可能に陥り
放浪は許されず
破壊は自ら許さず
途方に暮れる毎日です

陽光に温もりはなく
微風は異臭を放ち
風景に音楽は流れず
心は至極平板となりました

僕はこの船に追いつくために
全てを賭けて泳いだと自負していました
休暇が長すぎたのです
いや、この船に乗り込んでではならなかったのです

この船を進ませていたのは
素晴らしいことに、人間の総力でした
僕もそれに手を貸してやりました
ところが、僕はそれに飽いてしまったのです

船の中の自由は窮屈なものでした
そして航路に異論を唱える者も居ない
船長もまた
目的地など持ち合わせていなかったのです

僕は眼下の波しぶきを見つめながら
この身を躍らせることばかり考えています
しかしそれは不可能なのです
自由とはかくも不可逆なものなのです

(1991.7.21)